

# 子どもを確かな目でみてくれる 安心感が、そこにある

浅尾 美和さん(タレント)

「ビーチの妖精」と注目を浴び、ビーチバレーで活躍した浅尾美和さんも  
現役を引退し、今は二人の男の子のお母さん。

最近では、医療機関に行く機会がめつぼう増えていると言います。  
母となった浅尾さんはかかりつけ医と、どんな関係を築いているのでしょうか。



浅尾 美和(あさお みわ)

1986年生まれ。三重県出身。高校時代にはアタッカーとして高校総体や春の高校バレーなどに出場。卒業後、ビーチバレーの世界に。2012年に現役を引退。2013年に結婚し、現在は3歳と1歳の子がいる。住まいのある東海地方を中心にタレントとしてテレビなどでコメンテーターを務めるほか、三重県の観光大使にも任命されている。

初めての子育ての不安を  
取り除いてくれた存在

かかりつけの先生とは  
長く良いおつきあいを

子どもがこんなにも頻りに医療機関にお世話になるものとは思いませんでした。私は体が強いのが取りえで、現役時代も通院や入院をしなくてはならないようなケガをしたことが一回もありません。医療機関とは全く縁なく過ごしてきたので、子どもを産んで初めて、そのありがたさに気づきました。

男の子が二人いますが、特に上の子は生後三カ月くらいからアトピーのような症状が出たため、アレルギー疾患に詳しい医療機関に通っています。私も初めて体験することばかりで気が張っていたり、子どもが夜泣きして寝不足だったりしたこともあって、先生から「大変でしたね」と優しい言葉をかけてもらった時に、ポロポロと涙がこぼれてしまいました。自分ひとりで抱え込まないで、何でも先生に相談すればいいんだと安心したのだと思います。

先生がとても穏やかな方で、どんな不安も取り除いてくれるので、「この先生をかかりつけにしよう」と決めてずっとお世話になっていきます。子どもも優しい先生が大好きで、40度近い熱を出して駆け込んだのに、先生の顔を見るなり、それまでぐったりしていたのが嘘のように元気になったりするので「本当の様子を先生に見せて」と内心ハラハラすることもありますが、基本的には医療機関に行くことを全く嫌がらないので「この先生に出会えて本当に良かった」と思っています。

小さな子どもは、自分で具合が悪いとか、どこが痛いとか言えないので、親が気づいてあげなければいけません。私はちゃんと気づいてあげられているのだろうかと不安になることもありますが、かかりつけの先生がいれば、子どものちょっとした変化にもちゃんと気づいてもらえるのもうひとつの目があることを頼もしく感じています。しかも「あいさつできるようになったんだね」と、子どもの成長にも気づいてくださったりするので「一緒に育ててもらっているような安心感ももらっています」。

こんな風に話すと夫が何もしていないように聞こえそうですが、夫も子育てにとても協力してくれています！美容師なので人が相手というところは先生と同じ。一緒に医療機関に行った時など「あんな風に優しく接するのいいんだな」なんて、先生から時々接客のヒントまでもらっているようです。

私も子どもが二人になって、やっとなんと母としての目が備わってきたというか、少し母親らしくなれてきたかなと感じています。安易な判断をしてはいけませんけれど、不安だからとすぐに医療機関にお世話になるのではなく、しっかりと症状や経過を見て、自分の手に負えなくなる前に医療機関に行くといった、節度のあるおつきあいを長く続けていきたいと思っています。

## もっと知りたい! かかりつけ医

### かかりつけ医をもっている人は



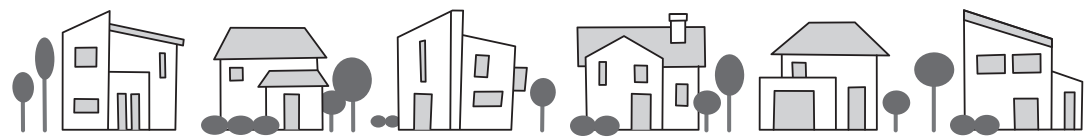
「かかりつけ医」をもつことで、どのようなメリットがあるのでしょうか。日本医師会が行った調査\*によれば、「かかりつけ医」をもっている人は受けた医療に対する満足度が高く、検診の受診率も高いという結果が出ています。

なじみの「かかりつけ医」のもとで病気を早期に見つけることができれば、重症化の予防にもつなげることができますし、専門の医療機関を紹介してもらうことも可能になります。

健康診断などに行く機会を利用して、ご自身に合った、何でも相談できる「かかりつけ医」を、ぜひ探してみてください。

日本医師会

\*第6回 日本の医療に関する意識調査



これからは、医療と介護でまちづくり